

国立科学博物館 サイエンスコミュニケーター 養成実践講座1 (SC1)

～理論と実践の対話型カリキュラム～

そもそも“サイエンスコミュニケーション”とはいったい何か？
といった考え方をはじめ、メディア・研究機関・博物館など、
各機関・分野で活躍している講師から、実践を踏まえた
理論を学習します。

また、様々な人々を対象として科学を伝える際に効果的な
プレゼンテーションの方法について学びます。

【主催】 独立行政法人 国立科学博物館

【対象】 大学院生（大学パートナーシップ入会大学の院生を優先）、博物館職員等社会人
※入会校一覧：<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/enroll.php>

【実施方法】 オンライン形式および対面形式

【期間】 令和6年 5月23日（木）～ 8月19日（月）

【コマ数】 34コマ

【定員】 20名程度

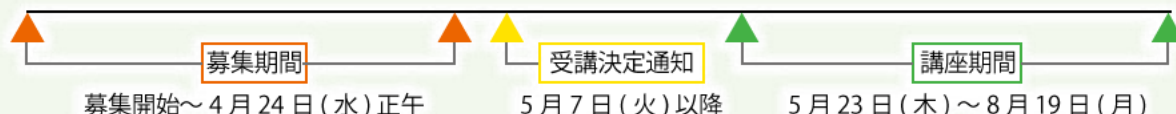
【受講料】 63,000円（大学パートナーシップ入会校の学生は31,500円）

【応募方法】 本講座のWEBページをご確認いただき、Gmailにて、必要事項をお送りください。
・ URL：<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/sc/sc.php>
・ 宛先：sc@kahaku.go.jp（国立科学博物館 SC講座担当）

【応募締切】 令和6年 4月24日（水）正午

【注意事項】 本講座のWEBページに掲載している『応募に係る注意事項』についてご確認の上、
ご応募ください。講座の詳細につきましては、WEBページをご参照ください。

【受講までの流れ】



応募×切
令和6年
4月24日（水）
正午



令和6年度 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座「サイエンスコミュニケーション1(SC1)」

授業科目一覧・スケジュール

- 令和6年度の「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座」は、対面形式及びオンライン形式を組み合わせた形で実施いたします。
- 講座は、主に座学と課題研究から構成されています。

講義	サイエンスコミュニケーションに関する理論を学ぶ授業です。担当講師は各分野の第一線や現場で活躍されている方々です。授業形態は、対面で実施する5月25日の3コマをのぞいて ・オンデマンド型授業（60分）＋同時双方向型授業（60分）※オンデマンド授業は同時双方向型授業実施日の1週間前から配信予定 ・同時双方向型授業（90分） の2種類からなり、講義では、それぞれの事前・事後課題も含めて深く学びます。
課題研究	一般の方に向け、自分自身の研究や専門分野について発表するための授業です。担当講師は当館研究者・職員です。発表日（8月1日及び2日）に向けて、講師や他の受講者との議論を重ねながら「ディスカバリートーク」を作り上げていきます。ディスカバリートーク…土・日・祝日に当館の研究者が交代で、展示物についての話や研究者自身の研究内容などについて、来館者に直接解説するイベントです。（ https://www.kahaku.go.jp/learning/event/d_talk/index.html ）

※赤枠5月25日、6月1日、8月1日・2日の授業は必ず参加していただく必要があります。

<講義>

同時双方向型 授業実施日程	講義名	授業形態	氏名	所属	概要
5月23日(木) 15:15~17:00	開講式・ オリエンテーション	オンライン	当館職員	国立科学博物館 事業推進部学習課	本講座を受講するに当たって、授業方法や評価などについての説明を行います。
5月25日(土) 10:00~11:30	サイエンスコミュニケーショ ン概論	対面	小川 義和	埼玉県立川の博物館 館長 立正大学 教授	サイエンスコミュニケーションとは何か、何を指すのかを、どのような特徴があるのか、時代背景を振り返りながら論じます。
5月25日(土) 11:45~13:15	博物館の機能とサイエンス コミュニケーション	対面	小川 義和	埼玉県立川の博物館 館長 立正大学 教授	資料の収集保管、調査研究、展示や学習支援活動等の博物館の機能と博物館の資源を活用したサイエンスコミュニケーションについて学びます。
5月25日(土) 15:30~17:00	博物館における 科学リテラシー涵養活動	対面	有田 寛之	国立科学博物館 科学系博物館イノベーシ ョンセンター長	科学系博物館の学習支援事業を国立科学博物館を例に紹介しながら、国立科学博物館の展示・学習支援事業の目的である科学リテラシー涵養活動について学びます。
6月3日(月) 18:00~19:30	調査・研究活動と展示	オンライン	並河 洋	国立科学博物館 動物研究部 研究主幹	博物館における企画展示を通じて、自然科学に関連する内容を分かりやすく伝えるための工夫や、この背景にある博物館活動との関わりについて紹介します。
6月6日(木) 18:00~19:30	文化としての科学技術	オンライン	岡本 拓司	東京大学大学院 総合文化研究科 教授	知識としての科学の特徴、その技術との関わり、科学が形成されてきた歴史的な過程などについて、参加してくださる方々のご経験やご意見を伺いながら議論します。
6月10日(月) 18:00~19:30	メディアに見るサイエンスコ ミュニケーションの実際：出 版編	オンライン	松原 由幸	株式会社 Gakken K12-1 事業部 図鑑・科学編集課	学習図鑑の実例を紹介しながら、子ども向けの市販商品におけるサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
6月14日(金) 18:00~19:30	サイエンス・ライティングの 基本の“き”から	オンライン	詫摩 雅子	フリーランス (元・日経サイエンス/ 日本科学未来館)	事前を書いていただく課題文を使いながら、サイエンス・ライティングの基本からお伝えします。ライティングの話になりますが、プレゼンなどにも通用する内容になります。
6月17日(月) 18:00~19:30	学校教育とサイエンスコミ ュニケーションの関わりと実 践にむけて	オンライン	永島 絹代	港区立みなと科学館 教育普及チームリーダー	学校教育の目指す方向(理科教育の現状と課題や育成すべき資質・能力、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学び)とサイエンスコミュニケーションとの関わりについて学び、その実践について考えます。
6月20日(木) 18:00~19:30	サイエンスコミュニケーション におけるリスクコミュニケ ーションの重要性と戦略	オンライン	鈴木 美慧	聖路加国際病院遺伝 診療センター・ 一般社団法人 CancerX 認定遺伝カウンセラー	医療と社会におけるリスクコミュニケーションの理論と実践の融合を目指し、サイエンスコミュニケーターが直面する挑戦とその対応方法を探るとともに、科学的情報の正確な伝達を促進するための戦略を学びます。
7月5日(金) 18:00~19:30	味方を増やすライティング ／間落ちしないために	オンライン	詫摩 雅子	フリーランス (元・日経サイエンス/ 日本科学未来館)	1回目の講義に続き、さらに上のライティングを目指しましょう。加えて書いた文章から浮かび上がってくる書き手の人柄についてお伝えします。自分が“間落ち”しないための指標にもしてください。
7月9日(火) 18:00~19:00	メディアに見るサイエンスコ ミュニケーションの実際：テ レビ・ウェブ編	オンライン	大石 寛人	日本放送協会(NHK) メディア総局 番組ディレ クター／デジタル担当	映像やデジタルコンテンツで「科学する」ために大事なことって?? 現場での実践例を交えながら、みんなで考えることができると思っています！
7月17日(水) 18:00~19:00	研究機関における サイエンスコミュニケーション の実際	オンライン	相馬 央令子	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 主幹研究開発員	研究・開発の場面での実例を紹介しながら、研究機関の研究者に求められる機関内外とのサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。

<課題研究>

6月1日(土) 10:00~15:00	課題研究(計 22 コマ)	対面	当館研究者・ 職員 文化庁職員	国立科学博物館 文化庁	<p>「課題研究」では、一般の方を対象に、受講者が「ディスカバリートーク」を行うことを最終目標としています。当館研究者による事例を参考に、自らの研究・専門分野についての発表を準備します。多様な専門分野の受講者同士が議論しながら「ディスカバリートーク」を作り上げます。</p> <p>また、文化庁著作権課の職員の方を講師として、「ディスカバリートーク」におけるスライド等で他人の著作物を利用する際の注意点について学びます。</p>
7月2日(火) 13:30~17:00		対面または オンライン			
7月7日(日) 13:30~17:00		対面または オンライン			
7月中旬 (日程調整中) 18:00~19:30		オンライン			
7月20日(土) 10:00~17:00		対面または オンライン			
7月23日(火) 18:00~19:30		オンライン			
7月30日(火) 10:00~17:00		対面または オンライン			
8月1日(木) 10:00~17:00		対面			
8月2日(金) 10:00~17:00		対面			
8月19日(月) 10:00~15:00	対面または オンライン				

※状況により、授業の実施日程等の変更や、講義の中止等の可能性がございます。

※各日程に記載されている課題研究の授業時間は、開始と終了の予定時間であり、適宜休憩時間が設定されています。